

資料室だより 番外編

長年、グレゴリオの家の古楽科講師を務め、慕われ続けた千成千徳（せんなりしげのり）先生が先日、逝去されました。心からご冥福お祈りするとともに、資料室に多大な貢献をしてくださった先生のことを書き記しておきたいと思います。

資料室の蔵書構成は私一人の力ではできず、先生方の知恵や専門領域の知識をお借りしています。購入計画のファイルを見返していますと先生が **performer's facsimiles**, **Minkoff** のファクシミリ・シリーズ、**Fuzeau** のファクシミリ・シリーズ、**Publications de la société française de musicologie** の良質のモダン・エディションといったよいエディションをここに入れる功績を果たしてくださっています。

ここで特筆すべきは先生ご自身が校訂なさりストラスブールの **Les Cahiers du Tourdion** から出版された **Pièces de viole d'un auteur Français anonyme du XVIIe siècle** の楽譜です (**ME5a/P624/1**)。これは先生ご自身がフランス語で序文をお書きになっておられますが、パリ国立図書館が所蔵する **Ms.1183 Pièces de viole** は残念なことに通奏低音のパートが消失していてこれを先生が旋律からバスパートを復元したものです。◀**Reconstruction de la basse continue: Shigenori Sennari**▶、とあります。見やすいモダン譜になっておりますが、オリジナルのマニュスクリプトの旋律部分もセットになってみるができます。

もうひとつ、忘れてはならないのはグレゴリオの家の研究論集 II (事務局で頒布しております) への寄稿「フランス・ヴィオール音楽黎明期のヴィオール奏者達とその作品への一考察」です。この論文は日本ヴィオラ・ダ・ガンバ協会からも注目され、これをテキストに勉強会も継続的になされています。グレゴリオの家が誇りにしてもよい業績ではないでしょうか？ フランス・バロック、あるいはヴィオラ・ダ・ガンバに多少なりとも興味をお持ちの方はぜひ一読なさってみてください。

常に穏やかで飄々とされていた先生らしく、今回も静かに安らかに逝かれたと聞いております。直接先生のことを存じあげない方々も多いかとは思いますが、このような人徳の演奏家も、このグレゴリオの家を支えていた重要な人であるということを心にお留めいただきたく資料室だよりに書かせていただきました。 (杉本ゆり 記)